



この町で、この地で笑って老いたい ～そのために今すべきこと～

【まち協だより】

令和7年9月号①

電話(FAX) 82-0933

発行: 山上まちづくりの会事務局

●山上文化祭11月9日(日)午前10時～午前12時 開催!

今年の演目は、コンサート2団体、優勝者賞品付きさつまいも品評会、巫女舞を予定しています。会場では大山おこわ、そば、栗まんじゅう、アメダス茶屋のケーキ、さくらんぼんのパン、吉川さんのポン菓子や山上産酒米で作った日本酒などがお求めいただけます。また今年はキッチンカーもやってきますのでお楽しみに、詳しくは別紙まち協だより号外をご覧ください。

●自治防災部 山上地区消防訓練

8月24日(日)に山上地区消防訓練が行われました。笠木地区大原集会所付近で出火した想定で訓練をしました。熱い中参加された皆様お疲れさまでした。今年は10月5日の日南町防災訓練で避難行動要支援者個別避難訓練も予定されています。消防団員の皆様よろしくお願いいたします。



●事務局 山上の盆踊りCDを作製しました!

山上の盆踊りCDが出来ました。「バンバ」「ハネソ」「こだいじ」が聴けます。歌詞カードもセットでついています。お買い求めは1セット1200円です。故郷を離れて暮らす方へのお土産にいかがですか。山上地内には踊れる方がまだまだいらっしゃいます。教わりたい方がいましたら、貸出用CDも用意していますし、山上センターの会議室も提供できます。遠慮なくご相談ください。

～今後の予定～

●日南町総合防災訓練 令和7年10月5日(日) 午前8時30分～午前11時

概要: 豪雨に伴う複合災害を想定した訓練

【テーマ】 豪雨災害における逃げ遅れゼロの実現

朝、防災無線を使った訓練放送が流れます。ご理解とご協力よろしくお願いします。

●山上まちづくり懇談会(まち懇) 令和7年10月17日(金) 18時30分～20時

【テーマ】 みんなで支える日南病院の未来

日南町議会でも活発な意見が交わされています、町長が直接地域の皆様にお話ししたいということです。例年より早い開催ですがたくさんのご参加をお待ちしています。

再び志をたてて

20

岩雄は学校の勤めをやめると、さっそく、「日野郡史」という本をつくることに取りかかりました。

この本は、日野郡の歴史や地理、その他の出来事などをすべて書きあげた本です。明治のなかばごろから計画されて、いろいろ準備にかかっていたのですが、なかなか進行せずにいました。岩雄は、大正八年からこの本をつくる委員の一人になっていましたが、学校の仕事が忙しくて、あまり力を入れることができませんでしたので、気にかかっていました。

学校をやめると、まず一にこの仕事に取りかかり、足りない資料を集めたり、今までに集まっている資料を整理したりして、仕事場のある根雨に何日も泊まり続けることもありました。

半年ほどのち、ついに上、下二冊の「日野郡史」ができあがりしました。仕事にかかってから二十一年近い年月と十名にものぼる人の手をかけての完成でした。この本は、今でも日野郡の大事なことをすべて記録した本として大切にされています。

岩雄は、以前から郷土の歴史、なかでも古い時代の郷土の歴史に興味を持っていました。そして、研究が続いているうちに、船通山こそ、「古事記」という古い本に出てくる「鳥髪とりかみの峯みね」で、「やまたの

おろち」の住んでいたとされる「ひの川上」であると思うようになりました。船通山は岩雄がずっと若くて、進むべき道に迷っていたころ、広い世界へと心の目を開ききつかけとなった山でもありません。

岩雄はまず、学校を辞めた時もらった退職金で、船通山の頂上の大きな木のあるあたりを買い取りました。そして、そこに「やまたのおろち」のおなかから出たと伝えられる「天のむらくもの剣」を記念して碑を建てました。

また、日野郡や隣村の島根県の仁多郡や能義郡、広島県の比婆郡の神主さんたちとも相談して、「宣揚祭せんようさい」とよばれるお祭りをすることにしました。そして昭和五年六月に第一回「宣揚祭」を行いました。国の発展を願うこのお祭りは、太平洋戦争後、しばらくやめられていましたが、今はまた、日南町と島根県の横田町の世話で続けられています。

学校の先生をやめるとき一番気にかかっていた「日野郡史」と、「船通山宣揚祭」を、なんとかやりとげて、少し暇ができると、子どものころから好きだった絵をかくことが増えてきました。なかでもとくに馬の絵が得意で、頼まれればかき、酒がはいって気分が良くなれば描き、ふすまにでも、障子にでも、気のむくままに描き残しています。

やりかけた仕事が少し片づく、岩雄は、今まで研究してきた古い時代のことをもっと勉強して、

自分の最後の仕事として、「雲伯うんぱく古代史の研究」(出雲と伯耆地方の古い時代の研究)をまとめたいと考えるようになりました。勉強の方法をいろいろと考えた岩雄は、広島高等師範学校で学んだ時、お世話になった小西重直先生に相談することにしました。京都大学総長になっておられた小西先生の骨折りで、京都大学文学部長西田直二郎先生のもとで勉強することを許してもらうことができました。

岩雄は向学心にもえて京都へと旅立って行きました。昭和十四年、岩雄が六十六才の時です。若い学生の中にまじって勉強することは、六十六才の岩雄には苦しくつらいこともありましたが、岩雄は願いがかなって、嬉しくはりきって勉学に取り組みました。

